

Ⅲ 平成 29 年度の事業計画

1 作品収集

(1) 収集方針

- ・国内外の近現代(19 世紀末以降)の陶芸作品を収集する。
- ・特に次の 3 点を収集方針の柱とする。
 - 1 個人作家の作品
 - 2 実用陶磁器 (作家が実用のために手作りした、比較的廉価で少量生産の陶磁器。)
 - 3 産業陶磁器 (モダンデザインの思潮に基づく作品の系譜から、戦後工業デザインやブランド陶磁器に至る作品。)

(2) 平成 29 年度美術品等収集委員会

- ・平成 29 年 1 1 月下旬に開催の予定。

2 保存管理

(1) 概要

- ・所蔵作品の状態チェックは、所蔵品の展示、貸出等の機会に行う。
- ・所蔵作品にダメージが生じた場合は、専門の修復業者、作家等に修復を委託する。
- ・作品保存環境に関しては、IPM (総合的有害生物管理) など、専門的な情報の収集に努める。

(2) 作品貸出

- ・全国の美術館等の作品借用依頼について、条件を確認し館内で検討して対応する。
特に県内、東濃地域の美術館等文化施設からの依頼には、出来るだけ協力する。

3 展示

- 国内外の近現代の陶芸をめぐって、多彩なテーマで企画展を開催する。
 - これまでに引き続き特に次の視点を重視。
 - ・日本の近現代陶芸史に重要な役割を果たした作家・作品を紹介する。
 - ・モダンデザインの系譜としての産業陶磁器や、ヨーロッパ名窯の作品を紹介する。
- 収蔵品を恒常的かつ効果的に紹介する。
 - これまでに引き続き特に次の視点を重視。
 - ・郷土関係作家や、地元関連のテーマから、優れた、また注目すべき作品・動向を紹介。
 - ・現代陶芸を、隣接する領域である現代美術やデザインなどとも関連づけて紹介。
- 平成 29 年度の展覧会は特に次の点を考慮。
 - ・開館 15 周年にあたりその記念の企画展を 4 本開催する。
 - ・3 年に 1 度の国際陶磁器フェスティバル美濃にあわせた展覧会を行う。

(1) 企画展（特別展）：ギャラリー I の展示

企画展名	会 期	内 容
開館15周年記念 コレクション ×クロニクル —制作年からみる岐阜県現代 陶芸美術館コレクション	平成29年4月18日 ～6月18日	当館のコレクションは、造形的作品から日常使いの器や産業製品まで多岐にわたる。開館以来15年間に形成された、その多彩な魅力を改めて紹介するため、本展では作品の制作年に注目して展示する。 同時代の作品どうしを対照させ、ときどきの現代を重ねて総体的な現代を紹介する試み。
開館15周年記念 明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代 【巡回展】	平成29年7月1日 ～8月27日	江戸時代から磁器の品格ある華やかな製品をつくってきた有田は、明治期に殖産興業政策のもと革新的な製品を創出するようになった。 本展は明治時代の有田を牽引した香蘭社や精磁会社を中心に、万国博覧会への出品作品などを紹介する。
【巡回先】 そごう美術館 佐賀県立九州陶磁文化館 兵庫陶芸美術館 いわき市立美術館 泉屋博古館 はつかいち美術ギャラリー 秋田市立千秋美術館	平成27年9月5日～10月4日 平成27年10月16日～12月6日 平成28年3月19日～6月5日 平成28年7月23日～9月4日 平成28年9月24日～12月4日 平成29年2月4日～3月20日 平成29年4月22日～6月18日	

<p>開館15周年記念 浦上父子コレクション展 (仮称)</p>	<p>平成29年9月9日 ～10月22日</p>	<p>山口県萩市出身の実業家で美術品コレクターの浦上敏朗氏と、長男で東京・日本橋の古美術商である浦上満氏の蒐集による作品群を紹介する。</p> <p>山口県立萩美術館・浦上記念館の所蔵となっている、敏朗氏の系統的に集められた中国・朝鮮陶磁や浮世絵、そして満氏の北斎漫画コレクションをはじめ越州窯青磁、古鏡など、父子の多彩なコレクションを一堂に展示する。</p> <p>国際陶磁器フェスティバル美濃に合わせて開催。</p>
<p>開館15周年記念 1964 証言—現代国際 陶芸展の衝撃</p>	<p>平成29年11月3日 ～平成30年1月28日</p>	<p>1964年に東京等4会場で開催された「現代国際陶芸展」は、日本で初めて世界の陶芸を紹介した展覧会であったが、「日本陶芸の敗北」と評されるほどの衝撃を日本の陶芸界に与えた。</p> <p>「現代国際陶芸展」の出品作と、記録や証言を通じて、この展覧会を検証し、外国の陶芸との出会いによって日本の陶芸に拓かれた世界を探る。</p>
<p>コレクション ×キュレーター</p>	<p>平成30年2月10日～</p>	<p>当館では国内外の近現代陶芸作品を収集、展示しているが、学芸員がそれぞれに調査研究している専門分野は少しずつ違っている。</p> <p>本展は、所蔵作品の中から各学芸員ごとにお薦めの作品群を選び出し、多彩なコレクションを多角的に照らし出すことを試みる。</p>

(2) 常設展（コレクション展）：ギャラリーⅡの展示

展 覧 会 名	会 期
「国際陶磁器フェスティバル美濃」の歩み 1986-2014	平成29年4月25日～7月2日
平成28年度 岐阜県青少年美術展	平成29年7月15日～7月23日
大地のこどもたち2017	平成29年8月5日～8月27日
お茶の時間（仮称）	平成29年11月11日～平成30年3月18日

4 教育普及

(1) 展覧会関連の催物

- ・講演会、ワークショップ等：展覧会に関連して、専門の講師による催物を開催する。
- ・ギャラリートーク：当館の学芸員、ボランティアスタッフにより、展示解説、鑑賞ガイドとして開催する
- ・その他、展覧会に関連して、関係機関との連携などにより、様々な催物を開催する。

開催記録と一部予定

開催日	タイトル・内容等
4月25日	<p>「コレクション×クロニクル」展 関連の催物</p> <p>◇屋外展示 三島喜美代「WORK-03」 セラミックパークMINOカスケード部分に作品を展示。</p>
5月27日	<p>◇多治見市図書館連携企画 おはなし+鑑賞会「みる・きく・たのしむおはなし会」 作品を皆で鑑賞し、そこから連想されるおはなしのよみきかせをする。</p>
毎週日曜日	<p>・ギャラリートーク 当館学芸員による</p>
5月20日	<p>「国際陶磁器フェスティバル美濃」の歩み」展 関連の催物</p> <p>○対談「国際陶磁器展美濃を振り返る」 講師：中島晴美（多治見市陶磁器意匠研究所 所長・陶芸家） 伊村俊見（岐阜県立多治見工業高等学校 専攻科主任・陶芸家） 聞き手：榎本徹（岐阜県現代陶芸美術館 顧問）</p>
会期中 3回	<p>・ギャラリートーク 当館学芸員による</p>
7月1日	<p>「明治有田 超絶の美」展 関連の催物</p> <p>○記念対談「香蘭社 VS 精磁会社 ここがすごい！明治有田の超絶」 講師：鈴木由紀夫（佐賀県立九州陶磁文化館 館長・本展監修者） 森谷美保（美術史家・本展コーディネーター）</p>
7月1日	<p>○特別ギャラリートーク 講師：鈴木由紀夫（佐賀県立九州陶磁文化館 館長）</p>
会期中 3回	<p>・ギャラリートーク 当館学芸員による</p>
8月5日	<p>「大地のこどもたち 2017」展 関連の催物</p> <p>○講演会「土による造形教育の可能性」 講師：伊村俊見（岐阜県立多治見工業高等学校 専攻科主任・陶芸家）</p>
8月13日	<p>◇こどもワークショップ「土とあそぼう 動物喜怒哀楽」 講師：伊村俊見（岐阜県立多治見工業高等学校 専攻科主任・陶芸家）</p>

(2) 展覧会関連外の催物

- ・こどもワークショップ：こども向けに、専門の講師または当館・作陶館スタッフによる制作型のワークショップを開催する。
- ・その他、教育普及活動として様々な催物を開催する。

(3) 魅力発信事業

- ・陶芸と芸術、文化の様々なジャンルとの交流に注目して、陶芸の魅力を広い視野の中で多角的に発信する「魅力発信事業」を展開する。
このプロジェクトは、幅広いジャンルから講師を招いて、講演会・対談、ワークショップなどの催物を開催するもの。
- ・今年度は展覧会にも関連させながら展開する。

主な予定

開催日	タイトル・内容等
8月5日	◇ワークショップ&講演会「体験！発見!! 鉱物のふしぎな世界」 講師：宮脇律郎（国立科学博物館 地学研究部長）
9月10日	○講演会「江戸曼茶羅としての北斎漫画」 講師：橋本麻里（公益財団法人永青文庫 副館長、エディター・ライター）
10月7日	◇ワークショップ&講演会「黒髪的美しさを探る—歌麿時代の燈籠髷・つぶし島田—（髪型の解説と結髪実演）」 解説：村田孝子（ポーラ文化研究所 シニア研究員） 髪結：林照乃（髪結師）
12月2日	○対談「1960年代のアートシーン」 講師：建畠哲（美術評論家・埼玉県立近代美術館長） 谷新（美術評論家）
12月17日	○対談「その土地らしさ」について考える」 講師：濱田琢司（南山大学 人文学部日本文化学科教授） ナガオカケンメイ（デザイン活動家・D&DEPARTMENT ディレクター）

(4) 団体鑑賞

- ・一般団体からの展覧会の団体鑑賞を受け入れ、対応する。
求めに応じて学芸員等が展示解説、鑑賞ガイド等を行う。
- ・学校等の教育機関からの展覧会の団体鑑賞を受け入れ、対応する。
求めに応じて学芸員・教育普及係職員等が展示解説、鑑賞ガイド等を行う。

(5) 教育機関との連携

- ・ **教職員研修**：教職員の各種研修会を受け入れ、対応する。
 図工美術科の教育研究会、美術館活用についての研修など。
- ・ **鑑賞学習交流会**：主に小中学校の図工美術教師向けに、子どもの鑑賞をより良いものにするための研究会を行う。（6月11日第1回を開催）
- ・ **博物館実習**：大学生の学芸員資格取得に関する博物館実習を受け入れ、対応する。
 今年度は、3名受け入れ、7月14日～21日に実施の予定。
- ・ **職場体験学習**：中学校・高等学校等からの職場体験学習を受け入れ、対応する。
- ・ **出前講座**：学校へ教育普及係職員が出向いて、陶芸等の制作や鑑賞について授業を行う。

(6) ボランティアの活動

- ・ 登録者数：9人
- ・ 活動内容：ギャラリーIIの展覧会のギャラリートーク（解説）
 陶芸に関する研修

(7) 友の会との連携

- ・ **見学旅行**：日帰りバス旅行によって美術館等の見学に行く友の会事業と連携して、友の会会員のためのギャラリートーク等を行う。

5 調査研究

(1) 調査研究活動の基本

- ・作品の収集・保存、展覧会、教育普及活動など、当館の主要な活動の基礎として、またその活動に即して、調査研究を進める。
- ・当館の業務と連携した、館外での研究活動や研究発表も展開する。

(2) 調査研究等実施状況・実施予定

ア 所蔵作品に関すること

- ・熊倉順吉作品（稲塚コレクション）についての調査研究…花井素子

イ 展覧会等に関すること

- （企画展）「セラミックス・ジャパン」展…立花昭
 - ・寄稿「セラミックス・ジャパン 陶磁器でたどる日本のモダン」
大正イマジユリイ学会誌 No. 12、平成 29 年 6 月
- （企画展）「驚異の超絶技巧！ 明治工芸から現代アートへ」展…立花昭
 - ・作品解説、同展図録、平成 29 年 9 月刊行予定

ウ 教育普及活動に関すること

- ・「鑑賞学習」についての研究…岡龍郎
当館での鑑賞学習交流会を通じて。
- ・「学校団体による美術館鑑賞の利用普及」についての研究…岡龍郎
岐阜県教育委員会の中学校美術科部会（中美研）・小学校図画工作科部会（小図研）に参加し、美術館の魅力・利便性、学校側の事情等について、調査と意見交換。

エ 作品の保存等に関すること

- ・「IPM（総合的有害生物管理）」についての調査研究…花井素子
- ・「所蔵作品のコンディション等記録用カード」についての研究…林いづみ

オ その他（館外での執筆、研究会、講演等）

- 立花昭
 - ・編集協力『ゼロから分かる やきもの入門』（世界文化社）、平成 29 年夏刊行予定
- 花井素子
 - ・寄稿「楽歴代展—現代陶芸の視点から」
『視る』488 号（京都国立近代美術館）、平成 29 年 6 月刊行予定
- 山口敦子
 - ・講演 マイセン展（兵庫陶芸美術館）、平成 29 年 7 月

○高橋秀治

- ・寄稿「REVIEW『14人の造形展』」
『REAR』39号、平成29年4月20日
- ・寄稿「Andrew Wyeth in Japan」
『Andrew Wyeth in Retrospect』展図録、Yale University Press, USA、
平成29年6月刊行予定
- ・講演 公開特別講義、多治見市陶磁器意匠研究所、平成29年9月予定
- ・講演 ウィリアム・モリス展 記念講演会 豊橋市美術博物館 平成30年2月予定

6 館外との連携

(1) 全国美術館組織

ア 全国美術館会議

- ・総会に出席。
平成 29 年 5 月 25 日、鎌倉プリンスホテル
- ・「保存研究部会」「教育普及部会」に参加し、関係の専門情報を収集する。
- ・「美術館の原則と美術館関係者の行動指針」を職員に周知。

イ 美術館連絡協議会

- ・総会に出席の予定（平成 29 年秋）。
- ・展覧会情報（巡回展、共同企画展）を収集する。

(2) 県内美術館組織

ア 岐阜県博物館協会

- ・総会に出席。
平成 28 年 5 月 28 日、岐阜県博物館

○新設の専門部会「ひと部会」を担当（同協会 3 専門部会の内）。

- ・これまでの研修委員会等を受け継ぐ専門部会。
- ・会議を開き、活動の基本方針を検討する。
- ・会員研修会を計画する。

イ 東濃地区博物館等連絡協議会

- ・総会・研修会に出席の予定。
平成 29 年 6 月 29 日、美濃焼ミュージアム

(3) 陶芸関係美術館組織

ア 陶磁ネットワーク会議

- ・総会に出席の予定。
平成 29 年 7 月 13 日～14 日、茨城県陶芸美術館

イ 東濃西部陶磁資料館連携ネットワーク会議

- ・「東濃セラミックミュージアムガイド」を作成。
展覧会スケジュールを掲載。スタンプラリー帳を兼ねる。